

令和3年度 第2回 北広島市旧島松駅通所整備基本計画検討委員会 議事録概要

日 時 令和3年12月17日（金）午後6時00分から
場 所 北広島市広葉交流センター2階 研修室

◎出席者

- 委員
北海道大学名誉教授：角幸博、北海道大学名誉教授：平井卓郎、
札幌市立大学准教授：森朋子、北海道博物館学芸員：圓谷昂史、
北海道埋蔵文化財センター：藤井浩
- オブザーバー
北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課：赤井文人
北広島市役所企画財政部企画課長：佐藤直人
北広島市役所経済部観光振興課長：橋本征紀
北広島市役所建設部建築課長：松崎隆志
- 事務局
教育部長：千葉直樹
エコミュージアムセンター長：丸毛直樹、主査：畠誠、主任：記内瑞穂
コンサルタント会社：(株)KITABA 神長、窪田、百瀬
北電総合設計(株) 大日向

1 開 会

2 座長あいさつ

委員長

- ・ 前回の委員会において、みなさんからいただいた意見を反映した案を本日お持ちしている。
- ・ みなさんの意見をいただき、より良い計画を作っていきたい。

3 議事

【報告】

- (1) 史跡旧島松駅通所耐震診断調査業務委託報告書（抜粋） 資料-1
- (2) 前回委員会の議事概要 資料-2

事務局

- ・ 資料1について説明

委員

- ・ 実際に壁を開けてみないと詳細はわからないので、この状態そのままではできないこともある。設計変更は次々と出てくる。
- ・ こういったことは一般的なことで、北広島市の建築関係の方々と相談をしながら、代替案が必要な場合はどうやるか、継続して協議・検討していく必要がある。
- ・ 鉄骨のアングルのなものを入れて、構造材にできないわけではない。

委員

- ・ 配線など露わになっているものを、中に一緒に入れて隠すというのは可能なのか。

委員

- ・ 可能だが、耐震補強と配線を同時にやってしまうと、図面だけでやるとうまくいかないことが多いので、最初の設計案を作る際に設計者と一緒に相談・検討する必要がある。

事務局

- ・ せっかくの改修なので、そのようなことも含めて、検討したい。市建築課長と合わせて相談していきたい。
- ・ 事前にわかっているならば、そのようなことも含めて対応していきたい。配線の見せない、スッキリさせることも対応できると思う。

委員

- ・ 配線については、後から電気関係者が入ると色々なところが穴だらけになることがある。

委員長

- ・ 基本設計の時に、ある程度そこは事前に計画に抱き合わせにした方がいい。

事務局

- ・ 幸い天井裏の空間や床下にもスペースがあるので、壁の中に隠すことは考えなくてもいいのではと考えている。
- ・ 床下はそんなに高くないが、配線のスペースを置くくらいは問題ないと思う。

委員

- ・ そのほうがメンテナンスは楽になると思う。

オブザーバー

- ・ 史跡の現状変更との関係で伺いたい。3ページの図面で、板が貼ってあって、簡単に剥がせるのは良いが、漆喰の壁などを剥がさなければいけないとなると、壊さずに1面剥がさなければならぬとなっても大丈夫か。

- ・ 明治天皇の写真が貼ってある部屋はどうか。

事務局

- ・ 漆喰の壁の仕上げはなく、基本的に剥がせる部材となっている。
- ・ 明治天皇の写真が貼ってある部屋についても、壁を外す計画となっているが、合板の上に白い紙を貼っている仕上げとなっている。

委員

- ・ 漆喰壁の時も剥がさなければならない場合もある。外壁の下見板を剥がして、そちらから改修することが多い。大抵の場合はそれで大丈夫である。

事務局

- ・ 資料3について説明。

委員

- ・ よくまとまってきていると思う。
- ・ 補足的に伝えたいのが、P25に図を付け足していただいたが、前回は申し上げたのが、北海道の文化的価値を伝えるということがこの史跡が担っていることかと思う。
- ・ 大きく北海道開拓期の社会のシステムがあったということを伝えられたらと思う。
- ・ 地形、建物、中山さんのことだけではなく、大きく、北海道開拓時にそういったシステムがあったこと、その中で、この場所があったことを、きちんと伝えていければと思うが、うまくまとめていただいていると思う。
- ・ 4章の図で丸が3つある。青い丸の部分だが、この一番左の部分が今は島松の限定的な場所のことに着目している表現になっているが、もう少し広域の制度というか、駅通所ということが北海道の中でどのようなものだったのか、といった位置づけも入れていただけると分かりやすくなるのではないかと。
- ・ 基本方針の中において紫で連携という言葉が書かれており、道内自治体というものもあるが、今現在、残っている駅通所や文化財となっているものを着色してもらい、その展示をすることや、道内全体の駅通所のサミット、イベントにつなげるなども可能性があるのではないかと考えている。

委員

- ・ P75では、島松エリアの地形について触れられているが、25ページの図にあるような全道的な視点での島松駅通所の意義が見えにくい。
- ・ 苫小牧から札幌に来るのに、島松駅通所はどのような位置付けだったのか。苫小牧は当時港はなかったと思う。

委員長

- ・ アイヌ民族が住む時代からシコツ越えの時代、島松は石狩の方に抜ける重要な通りとしてあったのではないかと。

- ・ 駅通制度を考える上でなぜ島松だったのか、河川地域でのことだけでなく、もっと広い視野での島松の位置付けが見られると良い。

委員

- ・ クラーク先生もその道を通ってアメリカへ帰っていった。

委員

- ・ P86に駅通所の展示のゾーニングがあり、この空間の中に展示物が並べられると思うが、収蔵庫というのは赤い部分になるのだろうか。

事務局

- ・ 基本的にはそうなるが、受付については、人が常にいて観覧者に対応するところである。

委員

- ・ 気になっていたのが、最初の議事の報告の中で補強財が結構入ると言っていたが、部材によってはアンモニアが出てくるなど、文化財に有害なものが出ることもある。
- ・ 今後の詳細の検討の中では、博物館資料として保管されるものについては、どういう材料を使うのかなど整理されると良いかと思う。
- ・ また、温湿度管理が重要で、断熱が高ければ資料の状態をよく維持できる。変化が少ないような環境にしていくことが大事である。何を展示するかということにも関わってくるし、ここにどれだけ保存するかにもよる。

委員

- ・ 展示物の保存にはボックス的なものを設置することも考えられるか。
- ・ 断熱改修は建物の周りをすっぽり包まないと、一部分だけやると、水蒸気が入り込んで、建築自体を傷めてしまうこともある。部分的に強い改修をしない方が安心である。
- ・ 内側にもう一層コンテナのようなものを入れていくことも考えられるのではないか。

事務局

- ・ 建物内の展示物については、休館後はこちらに持ってきて、現在の冬季休館期間はスコップ類など害がないものを置いている。
- ・ 資料等に影響がない環境が作れるのであれば、そのようなスペースを用意してもいいと思っている。

オブザーバー

- ・ 気になっているのが、P82の「往時」という記載があるが、これは明治のことか。
- ・ 「あったらしい」のか、「あった」のか、要素によって元々のものなのか、復元なのか、今一度整理が必要である。

- ・ 史跡に訪れた人は、見たものをそのまま当時がこんな感じだったのだと思う。それをそのまま伝えていいのか。暖水路は年代と場所が分からないのであれば、それをしっかりと伝える必要がある。そのあたりの整理が必要ではないか。
- ・ 蓮池は明治のどこを目指しているのか。
- ・ 水田は当時のものの場所がわかっているのか。
- ・ 明治を目指すのか、昭和も入るのか、そのあたりの整理と、明治の時代で切るのであれば、何が明治からあったもので、何が明治以降に作られたものなのか、確認する必要がある。ここは当時からあり、ここは教育上後から作られたもの、など整理されると良い。

事務局

- ・ 久蔵が設置した暖水路の正確な位置は不明である。
- ・ 水田はあの位置にあったということはわかっているが、どのくらい広がっていたかは明確ではない。
- ・ 蓮池はあの位置にあった。また、蓮の育成エリアを広くすると計画で整理している理由としては、久蔵の御子息へのヒアリングによって、昔は今よりも広範囲に蓮が育っていたと聞いた。

委員長

- ・ 正確にその時代にあったかは分からないものについては、明記をした方が良い。

委員

- ・ どれがいつあったのかの整理は必要だと思った。表のような形で計画に入った方がいいのではないか。
- ・ 諸要素の一覧があるが、設置された年代が入ると分かりやすいのではないか。

事務局

- ・ 資料4について説明。

委員長

- ・ 完成予想図で、グリーンが濃いところがちょうど史跡との境目になっているということなのか。

事務局

- ・ そうである。隣接地については、角地なので使えない部分もあるが、概ね5000㎡を超える土地になっている。

オブザーバー

- ・ 水田の遺構とかが隣接地に存在していたり、埋蔵文化財があるということはないのか。

事務局

- ・ 久蔵が水田を行っていた以降も民家が古くからあり畑も行っていたため、現代の遺構が出てくるかもしれないが、直接中山家とは関係ないと思う。

事務局

- ・ 明治時代に久蔵が水田として使用していたかもしれないが、その後、最近まで別の方が畑等として使用していたところを市が購入した場所である。

委員

- ・ 史跡の場所の赤いラインはなぜこの範囲で引かれたのか。

事務局

- ・ 修理報告書には、明確にはなぜこのような範囲だったかは記載されていないため分からない。

委員

- ・ 隣接地の元々の土地の所有について、前の名義は中山さんなのか。元々所有している人が中山さんだったら、駅通所当時、隣接地も中山さんが使っていた可能性は高い。
- ・ もし元々中山さんの持ち物だった土地だとすると、史跡外でも意味がある。
- ・ 市が隣接地を買い取ったということは、元の鞘に戻った感じである。

事務局

- ・ 分かる範囲では、この一体全体が久蔵の土地で、水田だったと想定されている。おそらく長い間、中山家が土地を持って水田を行っていたと思う。
- ・ しかし、水田も形等が変わったり、その後、別の方の土地になったりしているので、当時のものはおそらく残っていないだろうと思う。

委員

- ・ 境界には緑の濃いライン（並木）が入っているが、これは残すのか。

事務局

- ・ 基準となる木があるので、史跡エリアということで、明確にラインができる。

森委員

- ・ 別の方の所有地との境目をつけるために、植えた樹木は、歴史的に価値はない。
- ・ 元々全体的に中山さんが使っていた土地なのであれば、樹木は必要ないと思う。
- ・ あえて区切る必要があるのかという考えになってくる。

事務局

- ・ 見学に来た方は史跡のラインがあるとわかりやすいということもある。検討させていただく。

委員長

- ・ 史跡内は国の補助を受けられるが、一体的に整備しても、史跡外は補助が出ない。
- ・ 史跡を楽しめるような、史跡隣接地の整備というくらいにしておくといいのではないか。
- ・ 史跡隣接地については色々と課題があると思うので、将来的には史跡外も一体的に使えたら楽しいだろうな、というような感じに思っている。
- ・ 基本計画で将来像の絵が入ったものをあまり見たことがないが、このような絵は載せるものなのか。

オブザーバー

- ・ 整備基本計画については、完成予想図をつけるというのがある。

委員長

- ・ 今日の指摘をされた部分について、計画を修正してほしい。

事務局

- ・ 今いただいた内容については、事務局側で内容を整理し、メール等で確認していただくことになる。
- ・ 今後、市の条例に基づき、この内容についてはパブリックコメントをしないといけない。
- ・ 教育委員会の中で、案として認めてもらう。パブコメ案として議会にも認めてもらう。パブリックコメントは条例に基づいて2月の中旬～3月上旬でパブコメをいただき、3月に入って回答案を作成し、再整理をして、最終決定を3月末にしていく運びになっている。
- ・ 基本的にはこのあと早急に内容を進めたい。できれば年内、まとまらなければ、年明けに委員の皆さんに配布したい。
- ・ 次回の会議については、3月中旬くらいを予定している。
- ・ 12月21日火曜日には文化庁の市原調査官が来られ、駅通所を見学しご意見をいただくこととなっている。

角委員長

- ・ 調査官のご意見も踏まえて修正し、委員へ送っていただく。何か意見があれば、フィードバックしていくこととする。